

26 QRコードを利用した災害緊急時透析情報カードの運用

諏訪赤十字病院 医療技術部第一臨床工学技術課¹⁾ 血液浄化部血液浄化課²⁾ 医療社会事業部³⁾
龍野 凜太¹⁾ 宮川宜之¹⁾ 森本学²⁾ 宮崎和浩²⁾ 飯山友子³⁾

【背景】

当院では、災害時に備えて「災害緊急時透析情報カード（以下、旧災害カード）」の携帯を患者に指導してきた。しかし、旧災害カードの携帯率が十分とは言えず、紛失や保管場所忘れといった問題が認められた。また、旧災害カードは、紙媒体のカードであり、記載可能な情報量に限界があった。

【目的】

災害カードの携帯率を向上させ、災害への意識を高める。

【対象】

当院に通院する外来維持血液透析患者。

【方法】

透析部門システムへの患者認証時に使用する体重カードに透析情報を閲覧可能なQRコードを貼付し、体重カードと災害カードを統合した新災害カードに変更した。

変更前後において、災害カードの携帯状況に関するアンケート調査を実施した。

【結果】

旧災害カードでは46名中35名（76%）が携帯していたのに対し、新災害カード導入後は62名中62名（100%）が携帯していた。新災害カー

ドの携帯方法は、鞆52%、財布32%、ロッカー10%、スマートフォンケース6%であった。

QRコードを活用したことにより旧災害カードの情報に加えて、ダイヤライザー、抗凝固剤、患者家族の連絡先といったより詳細な透析関連情報を閲覧可能とした。

【考察】

体重カードと災害カードを統合したことで、透析日に新災害カードを携帯することが必須となり、携帯率が向上した。これにより、紛失や保管場所忘れのリスクも軽減されたと考えられた。しかし、紛失、保管場所忘れを心配し、透析室のロッカーに保管している患者も存在した。そのため、災害への意識を高めるため災害カードの重要性について継続して啓発していく必要があると考えられた。

【結語】

QRコードを利用した災害緊急時透析情報カードの運用は、災害カードの携帯率の向上と透析関連情報量の拡大に寄与し、災害時に有用であることが示唆された。

【COI 開示】

本研究において開示すべき利益相反関係はない。